

支えあって 生きていこう

全盲の落語家

桂 福点

かつら・ふくてん

1968年、兵庫県生まれ。先天性緑内障のため、生後すぐ右目の視力を失う。中学生の頃に左目も失明。子どもの頃から音楽に親しみ、86年、大阪芸術大学に入学。音楽療法を研究し、卒業後、バンド「お気楽一座」を結成。96年、手話落語の創始者・桂福団治師匠に弟子入り。宇宙亭 MAKA、次いで音福亭 MAKA として、師匠のもとでバリアフリー落語や古典落語を学ぶ。独自に音楽漫談やバンド「お気楽一座」の活動にもとりくむ。09年9月、師匠から「桂福点」の名前をいただく。同年11月、桂福団治一門会の前座で舞台上がり、落語家デビュー。現在、日本音楽療法学会認定音楽療法士・岐阜県音楽療法士として診療所、作業所などでユニークな音楽療法をおこなう一方、テレビ・ラジオ番組に出演、講演活動などもおこなっている。

生後間もなく失明

南野 高校生の時に完全に失明しながらも努力を重ね、落語家になられた桂福点さん。よどがわ保健生協のコープこぶし通り診療所では、クリスマス会の進行もしていただいています。医療福祉生協とのかかわりも深い福点さんに、今日は笑いやボランティアの話などいろいろ伺いたいと思っています。あと、写真も撮らせてくださいね。



インタビュアー 南野ウメ子

よどがわ保健生協（大阪府）
常務理事

桂福点 写真は、レントゲン写真ではあかんの？（笑）医療福祉生協の病院や診療所でちゃんと健康が維持されているということが、レントゲン写真なら分かってええでしょ。

南野 それは面白い！腹の中まで探られております、ということでも胃カメラの写真も載せたりしてね（笑）。まあ、冗談はそれくらいにして……。福点さんは先天性緑内障で、生まれて間もなく右目の視力を失いました。先天性緑内障というのは、どのような病気なのですか。

桂福点 房水といわれる目の中を循環する体液の流れが詰まり、眼圧が高まることで視神経が圧迫されて失明に至る視覚障害です。手術によって左目の視力は何とか保ったものの、右目の視力は失ってしまいました。

南野 福点さんは右目が見

えなくても、外を駆け回る元気な少年だったそうですね。子どもの頃からお笑いには興味があったのですか？福点さんと落語との出会いを聞かせてください。

桂福点 おばあちゃんが松竹新喜劇の大ファンで、子どもの頃、藤山寛美先生がテレビに出ると僕もいっしょに観ていました。これも笑いの英才教育ですかね（笑）。それと、家に落語のレコードがあったので、それをよく聴いていました。テレビで落語を観るのも好きで、「着物を着て座布団に座っている人がしゃべるのを観たい」といつかいたのを覚えています。

「多立／他立」できる 社会を

南野 中学生の頃から左目も徐々に悪くなり、15歳の時に福点さんは完全に失明します。失明によって絶望している福点さんを救ったのは、子



どもの頃からよく遊び、好きな漫画をいっしょに描いていた友達だったそうですね。

桂福点 緑内障というのは、体が変わる思春期の時に進行する可能性があるそうです。中学時代、僕は先生との関係がうまくいっていなくて、不登校ぎみになっていたので、目はどんどん悪くなる。好きだった漫画も描けへんし……。生きることにもやけになり、自殺したいと思うようになっていました。そしたら、いっしょに漫画を描いていた友達が、「漫画を描かれへんなら、音楽をしようか」といつてくれた。そして、ドラムをすすめられてやり始めたんです。ドラムは叩けば鳴るし、ストレス発散になると友達は思ったのでしょ(笑)。ドラムをやりだしたら、かまやつひろしさんにも評価されて、演奏がラジオで流れたんです。そうなると音楽が楽しくなって、自分の新たな生きがいになりました。

また当時、喜納昌吉さんの「花」という曲にすごく心を打たれた。こんな曲を僕も作れたらええなと思って、友達と音楽活動をするようになりました。まさに、友達と音楽が僕を救ってくれたんですね。この友達は、その後僧侶になりました。42歳の今年、心筋梗塞で亡くなりました。彼が死んでから、何かいまだに淋しいんですよ。

南野 人間にはいろいろな縁がありますよね。人との出会いがいっぱいある福点さんの周りには、いつも誰かがいて、見守られているという感じがします。

桂福点 支えてもらっているのは、ほんまにありがたいことですわ。支えられていないと、僕らみたいな障害者は生きていきません。僕に「自立」というのはあり得ないんですよ。だから、「たりつ」というのをめざしましょうと僕はよくいっているんです。

多くの人と立つ「多立」、人と立つ「他立」でもいい。「多立/他立」といって、他の人たちと力を合わせて、多くの人が支えあって生きていく。そういう環境を作ることが大切やと思うんです。「多立/他立」でないと、人間は生きていけません。

南野 すごく分かります。私たちでもそうです。1人でなんて生きていけない。支えあって生きるということは、まさに医療福祉協がめざしていることでもあります。

音楽療法士をめざして

南野 福点さんは大学で音楽療法を学び、音楽療法士になりました。音楽療法士をめざされるきっかけは何だったのでしょうか？

桂福点 高校時代の夏休み、重度障害を持つ方のためのボランティア活動に参加しまし



コープこぶし通り診療所で音楽療法をする桂福点さん

た。そこで音楽が重度の障害を持つてゐる方の心を高揚させ、明るくするのを見ていて、音楽にはすごい力があるんやなと感じました。

落語は与えられた時間の中でストーリーを追わなければいけません。でも、音楽は同じ時間の流れの中で、感覚的に直接情動に働きかけることができる。直接的なんですわ。ストーリーを理解して、次の展開を待つという

ようなワンクッションがないから、脳に障害があっても、直感的に語りかけられる。それが音楽の魅力ですわ。大学に進学して音楽療法を専門にされている先生に出会い、僕は音楽療法を研究するようになりました。

笑いの力、 笑いの大切さを実感

南野 大学卒業後も音楽活動をされていた福点さんは、27歳の時に手話落語の創始者でもある桂福団治さんに弟子入りします。なぜ、落語家の道をめざそうと思ったのですか。

桂福点 以前から落語をやりたいと思っていましたし、実は医療福祉生協とも大いに関係があるんです。

僕は阪神・淡路大震災の時に体をこわしましてね、よどがわ保健生協の淡路診療所で診察してもらいました。体調不良の原因は地震

の恐怖によるストレスとハーダな楽器演奏でした。目の見えない僕が頼りにするのは音だけでしょ。震災以降、しばらく体が揺れていて、ゴトツという音に体が反応するんです。えもいわれぬ恐怖です。それで倒れたんです。他にも、音楽コンクールを間近にひかえてストレスもあつたし、いろいろ重なつたみたいです。

淡路診療所にお世話になっている時、同診療所のディケアでクリスマス会がありました。音楽活動をしてる僕も参加して、歌を歌ったんです。すると、みなさんに喜んでいただいて、高齢のおばあちゃんは僕に握手を求めて「ありがとうございます！お兄ちゃんの歌、大きな声でビックリしたわ。私はおしっこ出にくいねんけど、お兄ちゃんのおかげで今日は出たで」。僕の歌は、利尿作用もあるねんと思ったりして(笑)。

こういう方たちのために、僕も音楽を通して何か役に立

てないかなと思って、ボランティアで音楽療法をさせてもらうようになったんです。ご高齢の方と接していると、笑いがすごく大事ななところ、笑ったんです。独居でひとり家においてたら、笑うことはないでしょ。会話の中には笑いがあつて、笑いは人を明るくする。笑いの力はすごいな。音楽もすごいけど、笑うというのは、こんなにもすてきなものと気づかされました。そんなことから、子どもの頃から好きだった笑いを追究したいと思うようになり、落語の世界に飛び込んだんです。

落語家をめざした 修業時代

南野 弟子入り後、見習い仕事を徹底的にやらされたそうです。落語家としての修業の日々は、どんなものだったのでしょうか？ 目が見えないこと、相当ご苦労もあつたのではないのでしょうか。



桂福点 師匠も僕の目が見えないことを分かっている

ので「車の運転はやめてくれ。わしも死にとうない」(笑) といつて、無理はさせません。では何をするのかというところ「お前が考える！」といわれましてね。「目が見えへんけど、自分でできることを考えて、やれることを100%の力でしろ！」といわれまして。そして、書類の文章を書いたり、掃除や肩もみとか、できることは何でもしましたね。

南野 今から来い！というような急な呼び出しがあれば、自分の用事をさし置いて行かなければいけない。修行生活は相当厳しいようですね。心が折れそうになったこともありましたか？

桂福点 日々、折れまくりますよ(笑)。

南野 落語は口伝えで教わるのですか？

桂福点 そうですね。師匠

がまるまる最初から演じてみせてくれたり、あるいは僕が覚えている落語を師匠の前で演じて指導してもらうこともありました。

南野 師匠が演じるのを聞いて、全部頭の中に入れるのですか。録音して持つて帰って…。

桂福点 それはダメです。師匠は録音なんてさせません。

南野 そうですか。その場で覚えないといけないんですね。とても集中力が必要ですね。

桂福点 思いつきり集中するか、寝るかです(笑)。

困るのは所作です。のれんをくぐる所作の時は、目が見えへんから稽古の時にうっかり顔からいったことがありました(笑)。師匠から、「お前は顔でのれんをめくるのか、アホ！」と叱られたりしました。

笑いのパワー

南野 2009年、師匠から「桂福点」という名前をいただき、落語家としてデビューしましたね。桂福点という名前に込められた意味は何でしょう？

桂福点 福点の「福」は、師匠の福団治の「福」で、「点」は点字の「点」です。そして「点」には無限の始まりという意味もあって、「福点」になりました。でも、いつも師匠は「お前を弟子にとったことが、俺の汚点や」というんです(笑)。もう、ネタにせんといて！という感じですよ(笑)。

南野 福点さんは師匠と「バ

リアフリー落語会」をやられていますね。どんな内容なんですか？

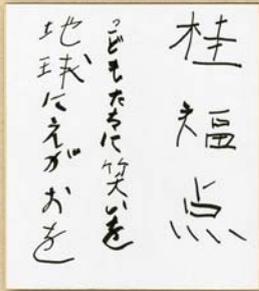
桂福点 師匠と僕と、聴覚障害のある弟子の3人で、手話落語をやったり、障害のあるなしにかかわらず楽しめる舞台をおこなっています。

南野 福点さんが笑いを通して考えるリアフリーのイメージはどんなものですか？

桂福点 以前、神戸市で医療福祉生協のイベントがありました。その時に淡路診療所の人たちが僕と共演することになりました。でも、普通の演奏では面白くない。そこでパフォーマンスを加えて、ご高



桂 福点さんおすすめの 本とサイン色紙をプレゼント!



手塚治虫

『ガラスの地球を救え
21世紀の君たちへ』

公文社知恵の森文庫

サイン色紙

セットで
3名様

本誌綴じ込みハガキにてご応募ください。

桂福点さんへの講演依頼などのお問い合わせは、
医療福祉生協連まで

齢の方も、若い組合員や職員の方も、みんなで歌って踊って、仮装してもらえるところ、けっこうに演出したところ、けっこう多くの人が参加して盛り上がりました。その時に感じたんです。笑いや音楽をひとつの手段として、障害とか、性別とか、年齢とかを超えることができる。笑いの中にノーマライゼーションがあつていいと思つたんです。

笑いは、僕たちの思いを伝える大きなエネルギー、パワーになります。メッセージ

を笑いに変えて、突きつけることができる。権力に対して、笑いは武器になります。だから、笑いを奪われた国は危険な国なんですわ。医療福祉生協で笑ったり、楽しめたりすることはすくいいことだし、それをまたエネルギーにして組合員活動に活かしていくことが大切やと思うんです。

もった
「けつたいなこと」を

桂福点 僕が診療所の喫茶室や待合室にいると、みなさんがやさしく声をかけてくれます。目が見えへんとか、体調を崩して大変やとか、組合員のみなさんは分かつていて、何か声をかけてあげようというのがあるんでしょう。病気などで精神的に弱っている時に、人の励ましとか、声かけはうれしい。それが医療福祉生協の組合員さんたちは自然にできて。それが一番のバリアフリーやし、あり

がたいことです。淡路診療所にも、コープこぶし通り診療所にも、今も点字ブロックがありません。目が見えない人たちのために病院に点字ブロックがあるに越したことはない。でも、一番ええのは両診療所のように手を引いて案内してもらえるところ。点字ブロックなどの整備も大事やけど、予算がなくて作れない場合もあるでしょう。でも、それは人間の力で何とでもなりますね。

南野 先ほどのお話にもありました「多立/他立」ですね。人と人がつながり、助けあつて生きていく…。

桂福点 それが医療福祉生協の魅力ちゃうかと思います。ただ、僕が医療福祉生協に求めるのは、若い世代やアラフォー世代も参加できるようなもつと面白いとりくみですね。何それ! みたいなのもつと面白いこと、「けつたいなこと」をしないと。

南野 「けつたいなこと」って、いいですね。私たちは、真面目すぎるとよくいわれますからね。

桂福点 真面目なことを、いかに楽しく発信するかが重要やと思います。遊びの中から大切なことを伝えることもできると思うんです。井上ひさしさんが「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを愉快に、愉快なことをまじめに」という言葉を残しています。僕はこの言葉が大好きなんです。井上ひさしさんの言葉のように、面白く、けつたいな医療福祉生協運動を追求して欲しいですね。

南野 それで、これからの医療福祉生協の運動に必要なことですね。いろんな人が支えあつて、「多立/他立」して、いっしょに豊かにくらしていくこと。今日は楽しく有意義なお話、ありがとうございました。